

刑法/江木衷(講義) ; 畔上啓策(編輯)
(英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級))

このPDF ファイルは、英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級)(原裝本デジタル・データ)から、刑法の部分を抽出して編集したものである。

講義録 35 号の目次には「刑法」と表示しているが、本文冒頭には「日本刑法」と表示している。

2015 年 7 月 中央大学大学史資料課

日本刑法

法學士 江木 衷 講義

校 友 畔上啓策 編輯

刑法ハ困難ナル法學ノ中最モ困難ナルコトハ是レ迄說キタル如クナ
 ルカ此困難ナル刑法ヲ研究スルニ付成典ノ順序ニ由リ之ヲ講述セン
 カ或ハ學術的ノ區別ニ基キ之ヲ研究ス可キカト云フニ抑成典ノ順序
 ハ立法者ノ立ル處ニシテ其區別タルヤ學術的トハ大ヒニ違ヒ若シ立
 法者ニシテ學術上ヨリ之レカ區別ヲ立テンカ下手ナ立法者ト云ハサ
 ル可ラスサレハ之ヲ講義スルモノニシテ成典ノ順序ニ由ランカ是亦
 下手ナ講義者ト嗤ラサル可カラ非ナリ加之成典ノ順序ニ由リ逐條講
 究セントスレハ或箇條ニツキ説明スルトキハ又他ノ箇條ニ至リ疑問
 ナ生シ復ヒ説明ノ勞ヲ取ラサル可ラサルニ至リ到底際限モナキト

ナル是レ余カ今回ヨリ更ニ講義ノ方法ヲ改良シ學術的ノ區別ニ基キ
講義セント欲スルナリ蓋シ之ヲ譬ヘハ成典ニ由リ講義スルハ恰モ暗
夜ニ物ヲ探ルカ如ク一々探求シテ是ハ書物是ハ「ランプ」ト知ルカ如ク
到底行フ可ラサルナリ反之學術的ニ基キ研究スルハ猶燭ヲ提ケテ物
ヲ照ラスニ等シク一目ニシテ瞭然タリ故ニ余カ學術的ニ基キ之ヲ講
究スルハ則諸子ノ腦裡ニ蠟燭ヲ持タシメントスル者ナリ夫レ然リ然
ルカ故ニ學術的ノ光明ヨリ見ルトキハ痘痕^{アベタ}ハ痘痕^{アベタ}片目^{アベタ}ハ片目^{アベタ}ニ見ユ
ルニ由リ或ハ我日本刑法ノ理論ニ符合セサル場合ヲ發見スルカモ知
ラザレトモ之レ是非モナキ次第ニテ是ニ至テハ余ハ強テ我刑法ノ辨
護者トナリ以テ學理ノ不通ヲ明ス^レ能ハサルナリ故ニ學術的ニ合ヒ
タル處ハ合ヒタルトシ合ハサル處ハ合ハサルトシテ論セサル可ラス
凡ソ刑法ヲ學術上ヨリ論スルトキハ之ヲ三ツニ區別シ第一ハ刑法ノ

全体ヲ論シ第二ハ刑法一般ノ原則ヲ論シ第三ニ各犯罪ニ付論スルチ
常トス乍併第一ノ緒論刑法ノ性質期限及ヒ刑法ト他ノ法律トノ關係
刑法ノ沿革淵源并ニ刑法ノ著書等ハ之ヲ畧シ我刑法ニ直接ノ關係ア
ルモノノミコ付キ左ノ二種ニ區別シテ論セントス

第一 汎論

第二 各論

汎論ト各論トハ猶ホ論理學ノ言葉ニテ屬ト種ト云エルカ如シ(例ヘハ
畜類ト云フトキハ種ニシテ其畜類ノ一ナル馬トカ牛トカ云フトキハ
屬トナルナリ)汎論ハ則チ屬トシテ罪刑ヲ論シ各論ハ則チ種トシテ之
ヲ論スルモノナリ

汎論ヲ講スル順序ヲ左ノ三編ニ區別ス

第一編 犯罪ヲ論ス

第二編 刑罰ヲ編ス

第三編 刑ノ適用及刑ノ消滅ヲ論ス

第一編 犯罪ヲ論ス

第一章 犯罪ノ定義

犯罪トハ各人カ社會一般ノ意思ニ反シ公權利若クハ私權利ヲ破リ又ハ國家ヲ維持スヘキ風儀又ハ宗教ヲ乱ル不正ノ所爲ヲ云フ是レ犯罪ノ定義ナリ乍併此犯罪ヲ罰シ刑ヲ該當スルハ刑法アリテ始メテ行ハルルモノナリ故ニ法律ノ原則ニ法律無クハ犯罪ナシトアリ此原則ニ虚言ハナケレトモ學者往々此原則ヲ誤解スルモノアリ現ニ我刑法ノ草案ニモ罪トハ法律ニ於テ罰ス可キ所爲ヲ云フトアリテ佛蘭西ニテモ尙モ如此併シ何ノ意味モナキコトニテ畢竟刑ノ方ヨリシテ罪ヲ説キタル者ナリ夫レ罪ハ本ナリ刑ハ末ナリ其末ヲ以テ本ヲ説ク何ソ

之ヲ以テ罪ノ範圍ヲ説キタルモノト爲ンヤ是レ此原則ヲ誤解シタル者ト云フ可シ故ニ余ハ今罪トハ云々ト説キタルナリ勿論法律ニ定メサレハ罪ナキハ當然ノ事ナリ今一ツノ原則アリテ是レト彼トヲ誤ル可キニアラス則法律ナクンハ刑ナシト云フ是ナリ此原則モ亦決シテ吾ヲ欺カサルナリ然ルニ世間ノ學者徃々此ノ二原則ヲ誤解シタル者アリ其誤解ヲ來ス所以ノモノハ苟モ法律ニ於テ罰スル所爲ハ皆法律ノ罪ニシテ法律ニ於テ罰セサルモノニ法律ノ罪ナシトスルニ起因シタル者ナリ成程法律ニ於テ罰スル所爲ハ法律ノ罪タルニ相違ナケレ共尙ホ法律ニ於テ罰セサルモ法律ノ罪トナルコトアリソハ期滿免除ヲ得タル罪ノ加キ是ナリサレハ必シモ法律ノ罰ナケレハトテ法律ノ罪ナシトス可カラサルナリ

サテ日本現行ノ刑法ニハ罪トハ如何ナルモノトノ定義ヲ下サレハ或

學者ハ之ヲ咎ムルモノアレ共是レ我立法者ノ賢明ナル所ニシテ却テ置カサル方宜シキカト思ハル、ナリ

余ハ是ヨリ前ニ述タル犯罪ノ定義ニ付一々分析シテ講究セント欲ス
 第一 犯罪トハ必ス不正ノ所爲ナラサル可ラス併シ現ニ不正ニアラサルモ罪トナルモノアリ換言スレハ其所爲自身ハ惡カラサルノミナラス却テ善良ナルモ立法官カ強テ不正トナスニ由リ法律上不正トナルモノナ云フ故ニ學者ハ不正ノ所爲ヲ二種ニ分チ一チ双對的ト云ヒ他チ絶對的ト云フ乃チ絶對的ノ不正トハ所爲自身ノ惡シキモノニシテ双對的ノ不正トハ所爲自身ハ惡カラサルモ法律ニ背クカ故ニ不正トナルモノナリ例エハ日本ニ煙草ヲ植ユ可ラサルト云フ規則アリトセシニ此規則アルコモ拘ラニ煙草ヲ植エタルトキハ設令煙草ヲ植ユルコトハ惡シカラサルモ法禁ヲ破リタルハ則チ國家ノ秩序ヲ亂ル者タ

ルヲ以テ之ヲ不正ノ所爲トナスナリ
第二 不正ノ事柄外形ノ所爲ニ現ル、ヲ要ス。所爲ニハ内部ト外部
ノ二タ通リアリ乃内部ノ所爲トハ我心ノ中ノ世界ニテ意思ノ決定シ
タルヲ云ヒ外部ノ所爲トハ我意思ノ決定カ我心ノ外ノ世界ニ結果ヲ
現ハシ人ノ五感ニ觸ルルモノヲ云フ然レトモ法律上ニテ論スル所爲
トハ此外部ノ所爲ノミヲ指スナリ
第三 犯罪ノ所爲ハ公私ノ權利ヲ破ルカ又ハ風俗宗教ヲ破ルモノナ
ラサル可ラス即犯罪ニヨリテ破ル權利ハ一人一己ノ權利ニ止マラス
或ハ一家族ノ權利モアル可ク或ハ一會社ノ權利モアルヘク或ハ一政
府ノ權利モアルベシ又其所爲ノ宗教ヤ風俗ニ乖戾スル者モ罪トナル
ナリ然レトモ此宗教ヤ風俗ニ乖戾スル所爲ハ悉ク法律ノ云フ犯罪ニ
ハアラスシテ其乖戾シタル風俗宗教ハ兼テ法律カ之ヲ破レハ罪トナ

スト定メタル者ニ限ルナリ然ラハ如何ナル場合ニ風俗宗教ヲ破リタ
 ルヲ以テ法律カ罪トナスカト云フニソハ宗教ヤ風俗ト法律トノ關係
 ヨリ定マルモノニシテ此等ト法律トハ全ク別物ナレハ決シテ混同シ
 テ見ル可ラス然リト雖モ此等モ多少一國ノ成立ニ必用トスルモノア
 レハ政府尙ホ之ニ關涉シテ其乖戾者ヲ罰スルコトアリ我刑法ニ於テ
 猥褻及ヒ神祠佛堂等ニ對スル不敬ノ所爲ヲ罪トナス是ナリ此等ハ我
 國家ヲ維持スルニ必用ナリト認ムルヲ以テ法律カ獨リ此等ヲ罰スル
 ナリ故ニ罰スルト罰セサルトハ各其國ノ法律ト宗教及道德トノ關係
 密着スルト否トニヨリテ異レルナリ

第四 犯罪タル所爲ハ社會一般ノ意思ニ反シタルモノナラサル可ラ
 ス此社會一般ノ意思トハ詰リ法律ト云フテ然ル可キナリ爰ニ一言ス
 可キモノハ社會ト國家トノ區別ナリ社會トハ人間共同ノ有様ニテ國

家トハ一ノ機關ヲ成スモノナリ其區別ノ判然タル點三アリ第一ハ國家ニハ際限アレ共社會ニハ際限ナシ第二ハ社會ハ天然自然ト成リタルモノニテ國家ハ人間ノ造リタルモノナリ第三ハ國家ハ一巳ノ無形人ニテ社會ハ天然上人間ノ集合ヲ以テ支ヘタルモノナリ然レトモ又一方ヨリ論スルトキハ日本ニハ日本社會ト云フコトアリ併シ此社會ヲ代表シタル者ハト云ヘハ則日本國ニシテ日本ノ社會ハ三千八百万人ノ集合ニシテ此集合体カ日本國ヲ組織スルモノナリ故ニ又社會ハ實物ニシテ國家ハ形ノミ現ハル、者ト云フ可シサレハ社會一般ノ意思ヲ持出シ國家之ヲ採用シテ形ヲ附ケタル者ハ是レ則法律ナリト云フヘシ

第二章 犯罪ノ區別ヲ論ス

犯罪ヲ區別スルニ古昔羅馬法ヨリ以來色々ノ區別アレ共長々シケレ

ハ略之我刑法ニハ之ヲ分テ三種トス曰ク重罪曰ク輕罪曰ク違警罪而シテ重罪トハ死刑徒刑流刑及ヒ禁獄懲役ノ刑ヲ云ヒ輕罪トハ禁錮罰金ノ刑ヲ云ヒ違警罪トハ拘留科料ノ刑ヲ云フトアリ是レ刑ノ方ヨリ區別ヲ立テタルモノニテ一言スレハ重キ刑ヲ加エタルトキハ重キ罪ト知レ輕キ刑ヲ加エタラハ輕キ罪ト知レト云フト同シク壓制極マルモノト云フ可シ併シ是レヅ立法官ノ區別ト學術的ノ區別トノ差異アル處ナリ然リ而シテ此三者ニ定ムルト雖モ場合ニヨリ加重減輕スルコトアリ斯ル場合ニ重罪カ減等セラレテ輕罪トナリ或ハ輕罪カ加等セラレテ重罪トナリタルトキハ何レヲ以テ本罪トス可キヤ前述ノ純理ヨリ推スキハ其減等又ハ加等シタル後ノ刑ニ相當スル罪ヲ以テ本罪トスルカ如シト雖我刑法ハ必スシモ此論理ニ固着セス總則ノ加減ハ其加減セサルモノヲ以テ本罪トシ特別ノ加減ハ其加減シタルモノ

ヲ以テ本罪トス其詳ナルコトハ後章ニ論ス可シ

第二章 犯罪ノ成立ヲ論ス

犯罪ノ成立ニ必要ナル原素ヲ集合スルヲ犯罪ノ構成法ト云ヒ又犯罪ヲ分析シテ其原素ヲ識別スルヲ犯罪^ア分析^シ法ト云フ此ノ二方法ハ何レモ犯罪ノ成立ヲ論スルニ用ユル者ナルカ余ハ今第一ノ方法ニヨリテ爰ニ講義セント欲スルナリ何トナレハ既ニ第一ノ方法ニヨリテ犯罪構成法ヲ論スレハ分析法ニハ由ラサルモ構成法ノ原素ハ則チ分析シタル原素ト同一物ナレハナリ
犯罪トハ一ノ所爲ニハ相違ナキモ唯所爲其レノミニテハ犯罪成立セズ必スヤ左ノ三條件アルヲ要ス

第一 犯罪ノ主体即チ犯罪人

第二 犯罪ヲ受クル物体

第三 犯罪ノ手段

是ナリ夫レ此ノ如ク犯罪ハ一ノ所爲ナレトモ其所爲ノ上ニハ此ノ三條件アル者ナレハ所爲ノ如何ヲ述フル前豫メ此等ノ事ニ付キ論セサル可ラス

第一款 犯罪ノ主体即チ犯罪人

第一節 犯罪ノ主体ヲ論ス

犯罪ノ主体トハ則チ犯罪ヲ行フ者ニシテ之ヲ行フ者ハ人類ナラサル可ラス(人類ト人類ニ非ルモノトノ區別ハ種々アレトモコハ動物學ニ讓リテ爰ニ説カス)故ニ例エハ風吹キテ家ヲ倒シ畜類アリテ人ヲ殺ストモ犯罪トハ云フ可ラス即チ人類ヲ除クノ外ハ神ニテモ又ハ怪物ニテモ犯罪ヲナス能ハサルナリ然レトモ日本ノ裁判所ニテハ沒收ノ如キ物品ニ對シ裁判スルコトアリ例エハ爰ニ一物品アリテソハ犯人ノ

所有ニアラサルモ禁制物ナルヲ以テ之ヲ沒收ストセハ犯罪人ハ其心ニ於テソレハ御門^{カド}違ヒナラント云フ可シ何トナレハ毫モ自分ニ利害ノ關係ナケレハナリ然ルヲ尙且之ヲ沒收セラル、ハ畢竟其物自カラチ惡ミタルニ外ナラスト云フ可シコハ後ニ刑ノ事ヲ論ズルトキニ至リテ精シク講明セント欲ス

犯罪ノ主体ハ人類ナラサル可ラサルコトハ既ニ述タル如クナルカ然ラハ法律上ノ無形人會社、國家、府縣ノ如キハ犯罪ヲ爲シ得ルヤ否ト云フニ此等ノ人ハ司法上或ハ行政上ニ云フ區別ニシテ刑法ニハ必要ナラサルナリ乃チ刑法ニ云フ人トハ自然ノ人ニシテ其外ノ者ハ人ト認メサルナリ併シ無形人會社ノ如キモノ現ニ犯罪スルコトアリ斯カル場合ハ其無形人ヲ組織スル所ノ有形人ヲ罰ス換言スレハ無形人トハつねれハ痛キ有形人ノ集合ナレハ刑法上無形人ヲ罰スルニハ其集合

体ノ一ナルつねれハ痛キ有形人ヲ罰スルナリ例エハ屋上制限アリテ
 水ヲ街路ニ撒カサル可ラス又ハ屋根ハ瓦モテ葺ク可シ杯入釜シク世
 話ヲ燒キナガラ却テ府縣廳ノ此規則ヲ犯スコトアラハ此場合ハ如何
 處分ス可キヤト云フニ其官省ノ會計主任ノ者カ罰セラレルナリ
 尙ホ犯罪ノ主体ニ付キ一ノ問題アリ則日本人民カ日本人民タル資格
 ナ以テスルトキハ罰スルコトヲ得ルヤ否ト云フニコハ後世ノ歴史家
 ノ任ニシテ現ニ手ヲ着ケタルニアラサルトキハ裁判所ハ罰スルコト
 能ハサルナリ

第二節 犯罪ノ責任ヲ負フニ足ル能力ヲ論ス

如何ナル人カ犯罪ノ責任ヲ負フニ足ル能力アリヤト云フニ犯罪ノ責
 任ヲ負フニハ人タル智能ヲ具フルヲ要ス此智能ハ三ツノ原素ヨリ成
 立スル者ニシテ其一ハ自分セルスコニヤス子ニ關スル知覺其二ハ他人コンシヤス子スオスエキスターナル又ハ外物ニ關ス

犯罪ノ責
 任ヲ負フ
 力ニ足ル能

ル^{レド}知覺其三ハ道德上^{モラール・コンシヤス・チス}ノ知覺是ナリ故ニ智能ヲ分析スレハ此又三原素ニ歸スル者ト知ル可シ

(第一)自己ニ關スル知覺トハ自己ノ腦裡ニ欲スルモノアレハ我手從ツテ動クヲ云フ即己レテ知ル知覺ナリ(第二)ハ自己ノ手ヲ以テ外物即チ此「ランブ」ヲ打テハ「ランブ」ハ如何ナル結果ヲ現ハスカチ知ル知覺ナリ(第三)ハ若シ此「ランブ」カ毀ル、トスレハ其之ヲ毀ツハ是カ非カチ知ル知覺ナリ今尙一例ヲ示セハ余カカチ用并テ刀ヲ舉レハ刀ハ我手ニ隨テ揚ルヲ知ル是レ第一ノ知覺ナリ又其刀ヲ以テ他人ヲ打テハ他人隨テ死傷スルヲ知ル是レ第二ノ知覺ナリ又他人ヲ死傷セシムルハ果シテ善ナルカ又惡ナルカチ知ル是レ第三ノ知覺ナリ

コ、ニ注意ス可キハ犯罪ノ能力ト犯罪ノ責任トノ區別ニシテ犯罪ノ能力ハ責任自身ニアラサレハ決シテ混同セサルヲ要ス此犯罪ノ智能

ニハ種々ノ度アリテ第二ノ知覺アリテ第三ノ知覺チ欠クコトアリ斯
 カル不完全ナル場合ハ責任ヲ負ハシメサルナリ
 能力ニ付キ論ス可キコトハ第一ニ幼者ト瘋癲人ナリ日本刑法第七十
 八條ニモ罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其
 罪ヲ論セストアリ是レ唯刑ヲ科セサルノミナラス固ヨリ罪ノ成リ
 立タサルモノナリ則チ幼者瘋癲人ノ如キハ第一及ヒ第二ノ知覺スラ
 無キ者アレハ況シテ第三ノ知覺ナキハ勿論ノコトナリ
 第一瘋癲人 瘋癲人ハ矮小ナル部屋ニ幽閉サレ困シキ如クニ見ユレ
 トモ實際自身ニハ決シテ困シキ者トハ思ハレサル由何トナレハ瘋癲
 人ハ自分ヲ神カ天人カ又ハ耶蘇ノ如ク此上モナキ賢者ナリトシ自分
 ニ關スル知覺チモ有セサレハ素ヨリ他人及外物ニ關スル知覺ナキハ
 言フチ待タスサレハ自分ノ着タル衣服ハ大禮服ノ如ク自分ノ居ル所

幼者

ノ部屋ハ宮殿ノ如クニ思ヒ居ルナリサレハ此者カ人ヲ殺セハトテ惡意アリト認ム可ラサルノミナラス夫レ自身ハ却テ當然ノ事ナリト思フテ爲シタル者ナル可ケレハ之レニ責任ヲ負ハシム可カラサルナリ又犯罪ノ當時ハ瘋癲ナラサルモ犯罪ノ後ニ至リテ瘋癲トナル者アリ此等ハ固ヨリ犯罪ハ成立シタル者ナレトモ刑ノ執行ハ之ヲ停止セサル可ラサルナリ

第二幼者 人間ハ漸々ニ成長スルモノニテ其初メハ皆幼者ナラサルハナシ故ニ第七十九條ヨリ第八一條マテ幼者ノ罪ヲ記載セリ則チ幼者ヲ第三期ニ區別シ第一期即十二歳ニ滿サル者ハ完ク犯罪ノ主体タル能力ナシトシテ其罪ヲ問ハス第二期即十二歳以上十六歳マテハ辨別力ノ有無ニヨリテ罰スルト否トヲ定メ第三期即十六歳以上二十歳ニ滿タサル者ハ罰スルコトハ罰スレトモ輕ク罰スト云フニ過キ

スサレハ第三期ハ能力ノ點ヨリ云ヘハ關係ナキモノナリ云々ニ關
 要之スルニ第一期ノ幼者ハ自己ニ關スル知覺及ヒ他人ニ關スル知覺
 ナモ有セサレハ之ヲ罰セス第二期ノ幼者ハ自己ニ關スル知覺及ヒ他人
 ニ關スル知覺ハ稍之レ有リト雖第三期ノ知覺ハ之ヲ有スルトキト否ト
 アリ故ニ之レ有ルトキニハ罪アリトナシ之レ無キトキハ罪トナサザ
 ルト云フ證據ナリトス
 譬エハ小兒カ物ヲ貰フニ「坊ヤ」ニ贈レト云フヲ見テモ其自分ノ名ノ代
 リニ三人稱ノ代名詞ヲ用ユルハ自己ニ關スル知覺ナキノ一證ナリ又
 人アリ石ヲ放抛シテ某ノ頭ヲ打チタルトキ小兒ハ之ヲ見テ風ノ吹キ
 飛シテ打チタルト同様ニ思フナル可シ是レ又他物ノ關係ヲ知ルノ知
 覺ナキモノナリ
 此ノ如ク十二歳以下ノ幼者ハ犬猫モ同様ニシテ且第一及ヒ第二ノ知

覺ハ畜類ニテモ有スル者ナリ然ルニ我カ刑法ニテハ力メテ之ヲ罰ス
 ルコトアリ違警罪ニ於ケル是ナリ違警罪ハ第二期ノ幼者ト雖モ尙ホ
 罪アリト認メテ減刑スルニ止レリ或人ノ保護說ニ曰ク違警罪ハ惡意
 ナ要セサルヲ以テ之ヲ罰スト果シテ然ラハ十二歳以下ノ幼者ト雖モ
 之ヲ罰ス可シ加旃ナラス尙ホ撞着スル點ハ瘖啞者ハ其罪ヲ問ハスト
 ナス是レナリ必竟スルニ此等ノ區別タルヤ我立法者ノ手細工ニ成リ
 テ理論ニ從ハサルニ出テタルモノナリ
 第三瘖啞者 瘖啞者ハ耳モ聞エス口モ適ハサレハ幼ヨリ教育ヲ施ス
 能ハサル者ナリ是レ知能ナキ者ノ一ニ加ハル所以ナリ然レトモ古エ
 ノ時代ニテハ兎モ角モ今日ハ盲啞院マテモ出來タル者ナレハ此等ニ
 固ヨリ犯罪ノ免許ヲ與フ可カラサルナリ併シ如何センヤ我刑法ハ之
 ナ七十八條ニハ包含セシメスシテ特ニ瘖啞者メミハ別條ニ不論罪ヲ

白痴

定メタレハ余儀ナク今日ノ所ニテハ犯罪ヲ許サ、ル可ラス故ニ理論上ヨリ言エハ瘖啞者ノ如キモ情狀ノ點ヨリシテ之ヲ減刑ス可キ而已ニシテ決シテ犯罪ノ責ナシトハ云フ可ラサルナリ加之ナラス前ニモ述タルカ如ク違警罪ハ幼者モ之ヲ罰スルコトアルモ瘖啞者ノミハ假令智能アリテモ之ヲ罰セサルニ至ル

夢中犯

第四白痴 色々醫學上ノ論モアリ又色々白痴ノ度モ異ナレトモ爰ニ云フ白痴ハ其最モ甚シキ者ヲ云フ是レハ我刑法ハ第七十八條ノ中ニ含有セシメ其是非辨別ノ如何ニヨリテ之ヲ罰スルト否トニ分ツ第五英語ノ「ナイトウチカー」即チ夢中犯ナリ是レモ我刑法ニテハ第七十八條ヲ適用ス可キ者トス

醉狂者

第六醉狂者 即チ英語ノ「ドランカー」ナリ此醉狂者ニ付學者ハ色々ニ議論シテ半醉生醉^{ナメ}全醉^{ナメ}杯區別シタレトモ此レ實ハ區別ス可キ者ニア

ラス故ニ我刑法ニテハ第七十八條ヲ適用シテ罪ヲ犯ストキ知覺精神
ナキトキノミ之ヲ罰スルモノトス是レ我刑法ノ適當ナル箇條ト云フ
ベシ
以上犯罪ノ責任ナキ無能力者ノ事ヲ論シタルカ偕此無能力者ノ罪ヲ
犯シタルトキハ之ヲ放擲シ置ク可キヤ否ヤト云フニ固ヨリ罪トナラ
サルモノナレハ刑ヲ科ス可キ様ナク况シテ減刑アラシヤ然レトモ之
テ放擲シ置クニモ至ラサレハ其取締リ方法ヲ設ケテ第七十九條ニ滿
八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留
置スルコトヲ得トアリ又第八十二條ニ瘖啞者ハ情狀ニ因リ五年ニ過
キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得トアルハ其目的刑ヲ科ス
ルニハアラサレトモ其取締リ方ヲ規定シテ再ヒ害ヲ爲サシメザルニ
止マルモノナリ

瘋癲人ノ規則ハ刑法ニ記載セサレハ純然タル行政上ヨリ之ヲ處分ス
ルニ止マレリ

第二款 犯罪ヲ受クル物体ヲ論ス

犯罪ヲ受クル物体ヲ論スルニ付色々ニ別ツト雖モ是レニモ亦能力ヲ
必要トス第一物理上ノ能力即有形的ノ能力ナリ

凡ソ目的アル犯罪ハ能力ナケレハ罪トナラサルナリ例エハ石地藏ヲ
殺シ或ハ影ヲ斬ルトモ其物体ニ生命アルニアラサレハ之ヲ殺スト云
フコトハ到底爲シ能ハサルモノナレハ之ヲ稱シテ不能犯トハ云フナ
リ
故ニ不能犯トハ犯罪物体ノ物理的ノ能力ヲ欠キタル場合ナリ是不能
犯ト欠効犯又ハ未遂犯ト間違テ來スモノニテ一般ヨリ論スルトキハ
不能力ト未遂犯トノ區別無キニ至ル例エハ石地藏ヲ人ナリト思ヒテ

刑法/江木衷(講義)；畔上啓策(編輯)

(英吉利法律講義録 (1886 (明治 19) 年度 第 1 年級))

23 ページ以降の講義録 (37 号以降) は非所蔵